

# らくじゅ

広報 らくじゅ 第22号(求人特集号)

2022.1/14 発行:社会福祉法人 楽寿会

〒421-2115 静岡県静岡市葵区与左衛門新田74-6

TEL 054-296-1111(代表) / FAX 054-296-1113

<http://www.rakuju.or.jp>



大特集

花を通じて育む  
“尊厳”・思いやりの心

「ふじのくに花の都しづおか花・緑コンクール」最優秀賞

「全国花のまちづくりコンクール」優秀賞

Photo:敬老の日のコミュニティガーデン

# 尊厳

第31回「全国花のまちづくりコンクール」優秀賞受賞  
樂寿会の理念「高齢者の尊厳を守る」  
花を園旗に掲げ、思いやりの介護を体現しています。



樂寿会では、花を通じて高齢者の尊厳を大切にする気持ちを表現し、職員も常に高い意識を共有しています。

伝えるものです。お花を見ることで心が和んだり、慈しみの心が生まれることで、自身の介護の在り方を見つめなおし、改めて「尊厳」を大切にした介護に努めることができます。さらには庭を開放することで地域や世代間の交流を生み、地域社会とつながる「コミュニティ・ガーデン」と位置付けています。樂寿会では、静岡県ふじのくに花の都推進協議会が推進する「お花自慢の職場宣言」にも事業所が参加しています。昨年度、静岡県が主催する「ふじのくに花の都しづおか花・緑コンクール」において「最優秀賞」を受賞し、川勝平太静岡県知事より表彰されました。令和3年、県のご推举により、第31回「全国花のまちづくりコンクール」に応募しました。全国から大賞に次ぐ「優秀賞」を受賞しました。この理念は介護福祉にも貫しております。昨年は静岡県介護技術コンテストでも最優秀賞に輝いており、また勇気を与え、復活と再生の象徴でもあります。これら受賞を機に、樂寿会はこれからますます「尊厳」を大切にします。介護福祉に取り組んで参ります。



# 介護の心

「全国花のまちづくりコンクール」審査委員長からコメントをいたきました。  
「高齢者福祉施設内の環境を職員の皆さんのが丸となつて花によつて美しく、快適で過ごしやすいものに整え、また、地域活動にも積極的に参加するなど、花に囲まれた福祉施設として他の施設のお手本となるよう取り組みが高く評価されました。入所者の特性を踏まえた花のしつらえ、地域の生徒・児童との花を通じたふれあいの場の設定などは、その評価をさらに高いものにしました。今後は、敷地内に広く設定されている「ミニティ・ガーデン」をはじめとした花の環境が、より広く地域の人々に親しまれ、地域の人々にとっての、「私たちのガーデン」となっていくよう発展していくことを期待しています」

このようなコメントをいただきました。今後、いたいたお言葉を大切にして、より良いガーデンを目指して参りたいと思います。

樂寿会の理念は「尊厳」を守るとしていますが、花のように和む心で、花のように慈しみ、優しく接する、誠心誠意尽くすことで花も人も輝くなど、花になぞらえて職員一同の意識を共有しています。そのため、花を樂寿会の理念の象徴とし、園旗・腕章・徽章にも花が描かれています。思いやり、優しさの象徴でもある花は、職員にとって尊厳を大切にした介護の旗印となっているのです。また入所者が心豊かに過ごせるように、花や緑のある環境を整えてきました。花やお庭をきれいに保つことは、それにふれる機会を利用者の皆さんに提供することであり、花を丁寧にお世話するよう利用者の皆さんのが尊厳を大切にしているという宣言もあります。また、お花を見ることで笑顔になったり、お花を見に行くためにリハビリを頑張ったりと、生きる力や自立支援にもつながります。「お花を見に行けるように頑張りましょうね」と、利用者と職員の間にコミュニケーションも生まれます。同時に、職員に対してもお花は重要なメッセージを

有馬 我々は、常に介護サービスを通じて感動を与えた、人生を豊かにしてもらいたいと考えています。庭が丁寧に手入れをされて、花がきれいに咲いていれば、家族やここを訪れる方々に入所者や利用者も大切にされているのだと感じ取つていただけるのでないかと思います。「私たちは高齢の方々の尊厳を大切にしています、」こういう姿勢で介護を行なっています」ということを宣言しているのがこの庭なのです。同時に、職員に対しても「入所者や利用者の尊厳を大切にしてください」というメッセージージを発信しています。

植物は世話をされない、人間が気分によつて愛でることを忘れてしまうと枯れてしまいます。それはきっと、人との接し方にも通じることです。こちらでは、施設の入所者や利用者への接し方と、庭づくりのやり方を一貫されているのだなと感じました。

**人は、森羅万象の力を求めている**

辻 初めて樂寿の園へお邪魔させさせていただきましたが、緑も花もたくさんあって素晴らしいですね。

介護施設で、これだけ庭づくりに力を入れているのはどうしてですか？

有馬 人は、森羅万象の力を求め本能をもつていています。

木や花、太陽の光、風、空の変化など、四季の移ろいの中で自然からの力を受感します。例えば、冬枯れの木立ちからの芽吹きの再生は、復活のシンボルとして私たちに感動と勇気を与えてくれます。このように自然から人は癒やされます。



(株)辻雄貴空間研究所  
華道家

# 辻 雄貴 × 有馬良建

「尊厳を守る環境」を考えてみた



有馬良建(ありま よしたけ)

社会福祉法人楽寿会会長兼理事長。静岡市議会議員、静岡県議会議員、静岡福祉大学社会福祉学部教授(社会福祉学)などを歴任。1996年、日本で初めて主催した介護技術大会が紹介されている「介護・看護職のための言葉づかいエクシリス」のほか、「介護・看護職のための虐待防止チェックリスト」、「高齢者虐待と権利擁護」等著書論文多数。厚生労働大臣表彰等を受賞。高齢者の尊厳を守る介護福祉の先駆的存在。日本の考古を中心歴史を学び「温故知新」を大切に。

辻 雄貴(つじ ゆうき)

富士市出身の華道家。建築を専攻していた大学院在学中で、いけはなど出身。「ヤクシジン」といういけばなしと能楽の世界観を融合した古くて新しい芸能のプロジェクトを旗揚げ。2013年にフランステを行なわれた能の公演では、静岡の放置竹林の竹を使って舞台を製作。2015年「シズオカカンヌ映画祭」ではアーティスティックディレクターに就任。2016年にはNYカーネギーホールで華道家として初の公演を成功させるなど、国内外から世界へと表現の領域を広げている。



制服に輝く楽寿のマーク

ですが、そこで働く先生には観葉植物を一つ自分で管理するという仕事が課せられていました。それをずっとお世話をしていると、幼児に対しての接し方も変わってくるそなんです。そのことを、今の話を伺つて思い出しました。植物を世話することで、職員の方にもきっと様々な気づきがありそうですね。

**有馬** 楽寿会の理念には、「尊厳を守る」を掲げていますが、この庭は理念を具象化する場所でもあり、これから私たちの姿勢を感じ取っていただければと思います。また、楽寿会がそのような想いで介護に取り組んでいる姿勢を第三者に表す役目も、この庭は担っています。

尊嚴を

され、感動し、心が動かされ、生きる力をもつていています。入所者や利用者の方々の生活の中で、こうした環境を整えることは大切だと思います。

# 地域に広がるお花の輪

## 花がつなぐ、 高齢者と小学生の交流

楽寿会では、『育てる福祉』として小学校との交流を大切にしてきました。昨年は「想いをかたちに」をテーマに、安倍口小学校の生徒が陶芸で花器を作り、楽寿の園のご利用者がそこへお花を生け、障がい学習センターに展示。それをまた小学生や地域の方に見てもらうという形で交流を行いました。コロナ禍で直接の交流はできませんでしたが、オンラインで小学校と楽寿の園、さらに藤枝市陶芸センターをつないで陶芸教室を実施したり、展示を見てもらうことで、作品やお花を通じて心の交流を行いました。



## 花で育む、 交通安全の意識

静岡中央警察署と協力し、高齢者や職員の交通安全にも取り組んでいます。地域包括支援センターの職員が地域の高齢者の自宅を訪れ、交通事故が多発している場所などを注意喚起する際に、お花を一輪添える「一輪運動」を、昨年独自に企画しました。ほかに、デイサービスのご利用者向けにオンラインで、職員向けには体験型で交通安全教室も実施。これらの取り組みに対し、静岡中央警察署から感謝状をいただきました。交通安全は高齢者の命を直接守ることにつながるため、法人を上げて取り組んでいます。



楽寿会では、地域福祉を大切にしています。その取り組みは次ページへ。

辻 その媒介するものが、緑や花であるということが素晴らしいですね。僕は、いけばなとは習うものではないという考え方を持つています。というのも、例えば、おばあちゃんが誰かが家に来る時に、その人を喜ばせようと庭から摘んできて生ける花が一番美しいと思うからです。昔はそれを当たり前のようにやっていたけれど、現代はそうではなくってきてしまっていることがもつたない感じます。逆に、ここにはそれがあるということが本当に素敵です。

有馬 我々も、庭から摘んだ花を施設内に生けたり、桜の花びらやもみじを、提供する食事に添

ものは生きる上でとても重要。そこに四季の移るい、自然とのつながりを感じさせるものがあることで、さらに精神的にも身体的にも癒やされたり、充足感に気づかないと考えています。

辻 庭の景色を食卓にも表現するということですね。いけばなの考え方とも通じていて、とても共感します。食事に植物を添えるようになったのは、殺菌効果というか、植物の力で悪いものを払うと信じる日本人が古くから行なってきた大事な行為です。

有馬 昔から日本人は、自然を神としてあがめて大切にしてきましたからね。今に生きる我々もその系譜を受け継いでいるのですから、自然と接することで

鬱々とした心のよどみとも言え



## 生きる力を 引き出す自立支援の

**生きる力を  
引き出す自立支援の  
目標として**

有馬 介護も、もちろん高度な技術を提供するわけですが、それ以前に想いを示すことが大切だと思います。想いを大切にすることで、結果として豊かさを提供することができ、それが尊厳を大切にすることに通じますから。入所者の生活の中で、こうした環境を整えることが大切です。高齢者介護の重要な視座に「自立支援」がありますが、入所者の内なる力を引き出すためにも、この庭は重要な位置づけに必ずあると思います。

ており、寝たきりの方などにどうしては、この場所まで行くことがあります。自立支援の具体的な到達点となるのです。そして、到達した時には感動や喜びが生まれます。実際に、寝たきりから自分の足でこの庭を歩けりながらになつた方がいますよ。確かに、庭の存在が内なる生きる力や意欲を引き出していると言えます。また、「お庭を見に行けるように頑張りましょうね」と、職員と利用者の間に「ミニユーニケーション」も生まれます。<sup>2)</sup>家族が訪れた際の憩いの場にもなります。そういうわけで、この庭を「ミニユーニケーション」と名付けていきます。それから、ここには地域の方々も訪れます。地域や世代間の交流を生み、地域社会との接觸点になつてているのです。



創造的に発展する  
自然を背景に

「竹でつくりたい」と依頼されたことがありました。静岡に放置竹林の問題があることを知り、竹を自分たちで伐採してフランスに送ったのですが、その時の竹は、ここから程近い足久保地区のものです。都市と奥山の間の、里山、であるこの地域は、人間が自然の一部だということを感じさせてくれる気がします。そこで、「」のような場所をつくって、いることはとても重要なことだと思います。

自然を背景に創造的に発展する「介護芸術」

有馬 楽寿の周辺を見ても、安倍川沿いの山々の緑とか、秋の紅葉があります。そして朝の陽の光、夕焼け空の景色もとても豊かな気持ちにさせてくれます。それらの背景も含めて、利用者・入所者、家族の方など、ここを訪れる人には楽しんではほしい、感動を味わってほしいです。私は、そういう部分まで満たして初めて、福祉というものが完成すると言えています。この庭が象徴するように、介護サービスというのは様々な要素を満たしている、いわば「壮大ないけばな」のようなものなのかもしれません。私は、介護や福祉も創造的に発展させていく「芸術」だという発想を持つていて、その点からも、この庭はなくてはならないものです。「介護芸術」という考え方で、これからも高齢者福祉の発展につなげ



市から受託している美和地域包括支援センター。社会福祉士、主任ケアマネジャー、看護師の3職種の職員が在籍し、総合相談、ネットワークづくり、介護予防、要支援者のマネジメントを担当。在宅介護をはじめ、保健・福祉・医療など様々なサービスを包括的に提供しています。例えば介護保険の利用方法などの具体的な相談から、近所の高齢者が閉じこもり気味で心配だというような声も拾い上げ、時には関係機関と連携して問題解決にあたったり、要支援1もしくは2と認定された方には介護予防サービ



日々、地域を駆け回る  
在宅支援に関わる職員

居宅介護支援センターのケアマネジャー、地域包括支援センターの職員をはじめ、デイサービスやショートステイの送迎など、歓迎会の車（約40台）が日々、地域を駆け回っています。いわば、地域福祉・在宅福祉の実働部隊です。



## 『人生を丸ごと理解する、ためのヒアリング』

ケアマネジャーがご自宅に伺い、ご本人やご家族から手助けをしてほしいことや、暮らし方の希望などをヒアリング。介護に関わることばかりではなく、利用者にとっての生きがいなども聞き取り、支援に反映していきます。

地域に溶け込み、  
在宅介護を実践。

美和地域包括支援センターの皆さん。地域を回って、高齢者のご自宅を訪ねて健康状態や生活能力を確認したり、地域住民の皆さんとのネットワークづくりをしています。交通安全の旗振りの方ともあいさつを交わす仲。



は、農繁期などに農家の方が「ご家族の介護を楽寿会に任せられれば安心して農業に臨む」ことができます。その結果、丹精込められた美味しい食の恩恵を受けることができ、地元住民は健康に。それがこそが、今後も美和地区を豊かな地域として持続させていく在り方だと信じ、その実現に向け、楽寿会はまい進しています。

とが優先されていたそうですが、  
樂寿会ではその頃から在宅福祉  
地域福祉に力を注いできたと言  
います。樂寿の園をはじめとする  
施設の定員が350名であるの  
に対し、在宅支援の対象の方は  
2000名と遙かに多いのは、そ  
の現れでしょう。

スを利用するための「プラン」を作成、そうではない方でも体力が落ちたなど感じている場合には介護予防の体操教室や講演会を紹介したりもします。さらに、介護に疲れた家族の心のケアをし負担を減らすための提案などを実行なうことも。それにより虐待を目を防ぎ、高齢者の権利を守る役目も果たします。ここで地域の民生委員、開業医、保健師などと協力することで、より効果的な支援提供に取り組んでいます。

人生を丸ごと理解することだと考え、ケアマネジャーは、直接介

「こんな手助けをしてほしい」「  
宅に伺い、ご本人やご家族から  
んな暮らしをしたい」などをヒア  
リング。どこのどういった介護  
サービスが最適なのかを吟味し  
たうえで、プランを提案してくれ  
ます。これを「アセスメント」と言  
いますが、歓寿会では、その人の

所、短期入所生活介護、居宅介護支援センターも備える特別養護老人ホーム、美和地域包括支援センターへ、訪問介護ステーションを併設し、通所リハビリテーションショーン、短期入所療養介護を行なう介護老人保健施設、デイサービスセンター、グループホーム、らくじゅの家、ケアハウスサンライフらくじゅ、そして認知症の方のサービスが充実したデイサービスなど、様々な介護を提供できる施設があります。中でも地域福祉が、在宅福祉において欠かせないのが、居宅介護支援センターと地域包括支援センターの2つです。

居宅介護支援センターは、介護サービスを利用した具体的なプランを作成する機関。自分の家で暮らし続けたいけれど、誰かの手助けがほしい時があります。そんな時、居宅介護支援センターへ連絡するとケアマネジャーがご

当写真の一部は二月上旬以前のものを使用してゐる。

# 楽寿の園の職員が 介護の未来ナビゲーターとして 介護の仕事の魅力を発信！

入所・利用者の方々が自分らしい日々を過ごしていただけるよう、それに寄り添う介護を目指して「高齢者の尊厳を守る介護」を実践しています。

その中で、楽寿の園の介護職員牧田さんが、静岡県知事から委嘱を受け、介護の仕事の魅力を未来の担い手である子どもたちに発信する『介護の未来ナビゲーター』に選ばされました。『介護の未来ナビゲーター』とは、県内の介護保険施設などに従事する若手職員が、介護職の魅力や、やりがいを情報発信することで介護職に対する理解を促し、介護人材の確保を図る目的で設置された役割。介護職員として、日々、尊厳を守る介護を実践しながら、介護の仕事の魅力を伝えるべく奮闘しています。



介護福祉士  
牧田佳樹さん

特別養護老人ホーム楽寿の園勤務  
静岡県介護技術コンテスト第7回(2018年)競技部門(軽度食事部門)最優秀賞(県知事賞)受賞

1.オンラインで未来ナビゲーターのインターンシップに参加中。2.仕事中の牧田さん。「高齢者の尊厳を守る介護」を日々、実践しています。

## 静岡県介護技術コンテストで 7名が最優秀賞を受賞。

楽寿会では、常に「高齢者の尊厳を守る介護」を実践しており、その成果として、過去9回行われた静岡県介護技術コンテストで7名の職員が最優秀賞を受賞しています。職員は、食事・入浴・排泄介助時の自立に向けた介護展開過程における一コマ一コマの場面において、言葉づかいや顔の表情・態度まで含め、楽寿会が規定したサービス評価基準に自身の提供サービスを照らして評価・改善・発展させており、介護福祉実践を人権擁護実践としてとらえ、取り組んでいます。



すろーかる 2021年4月号 掲載

この笑顔を  
楽寿会が支えます！

日頃から楽寿会とお付き合いのあるみなさんに集まっていた記念写真。自慢の農産物や商品自社を象徴するアイテムを持っていただきながら、楽寿の園の有馬理事長、副園長の万紀子さんをはじめ、実際に地域に出掛けた福祉サービスを行なう居宅介護支援センターのケアマネジャー、美和地域包括支援センターのスタッフと共に、最高の笑顔。それぞれに役割分担しながら支え合い、一緒に豊かな地域を創り上げるこれぞ、地域福祉の理想と言える姿を体現してみました。



楽寿会 会長兼理事長 有馬良建さん(元福祉大教授)、楽寿の園副園長 有馬万紀子さん、居宅介護支援センター、美和地域包括支援センター(まるのケア美和)の皆さん、老人保健施設医師 前田利文さん(美和学区自治会連合会会長)、堀内金作さん(美和学区社会福祉推進協議会会長・美和桜を育てる会会長)、栗田里志さん・すみ江さん(いちご)、海野剛さん(消防第30分団長)、大久保広志さん(みかん・はっさく)、杉山晴子さん(かなの家のせっけん)、清水祐輔さん(清水養鶏場 美黄羽)、秋山衛さん(茶手揉保存会・ホウレン草・春菊)、松浦京子さん(美和小学校校長)、株さんわ 谷康弘さん(お茶)